

Blue iSite

Company Info **iBIアライアンス**URL <http://www.ibiweb.gr.jp/>

GUI化、PDF対応、オールインワンを特徴に iSeries Siteへ付加価値をプラス

Focus

- 1 Rational HATSで開発したリッチクライアントで操作性を向上
- 2 PDF対応で多彩なアウトプットをサポート
- 3 IBM i上で処理が完結するオールインワン

iSeries Siteの付加価値を 大きく高めたテンプレート

iBIアライアンスは、IBMおよびビジネスパートナーとの協業を軸に、IBM i市場の活性化を目的に2008年1月に発足した「連合体」である。

構成メンバーは、いずれもIBM i市

場で活躍するビジネスパートナー7社（図表1）。IBM i上で稼働するソリューションやツール、ミドルウェアの品揃えを充実させるべく、各社のノウハウとテクノロジーを活かして、各種の開発に取り組んでいる。その第1弾となるソリューションが、今年4月に発売された。それが、「Blue iSite」である。

これは、IBMが発売する中堅企業向

けのERPソリューションである「iSeries Site」のテンプレートとして提供されている。

iSeries Siteの前身は統合型アプリケーション・パッケージ「GUI-PACK」などのいわゆるIBM PACKシリーズで、累計7000社以上の導入実績を誇る。

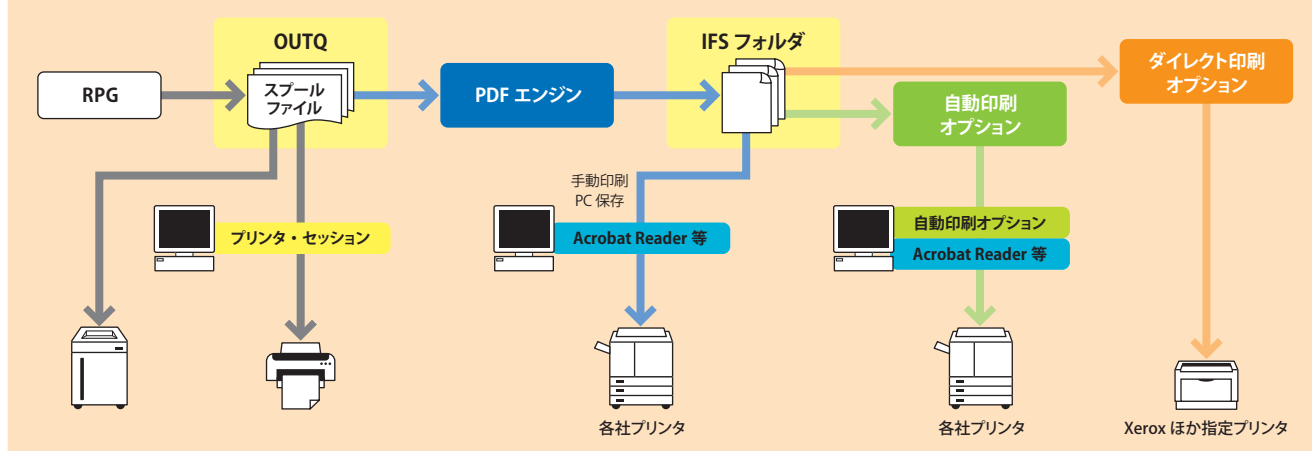
ソースプログラム提供型のSIコア、いわゆるIBMの「IPサービス・コンポーネント」であり、経理・給与・人事、および販売管理・生産管理・ワークフローなど多様なモジュールが発売されている。

このiSeries Siteに対して、「GUI画面による高い操作性」「帳票PDF化によるアウトプットの高機能化」「IBM iで完結するオールインワン性」の3つ

図表1 iBIアライアンス 構成メンバー

株式会社アイエテクノポート http://www.istechnoport.co.jp/	三和コムテック株式会社 http://www.sct.co.jp/
アルス株式会社 http://www.arsweb.co.jp/	株式会社ネスコ http://www.nesco.co.jp/
オークシステム株式会社 http://www.oac.co.jp/	株式会社ユーエスエス http://www.uss.co.jp/
共栄情報システム株式会社 http://www.kiscl.co.jp/	

図表2 PDF化によるアウトプットの流れ



画面1 給与マスター入力画面

画面2 振替伝票画面

の特徴を加えたテンプレートが、Blue iSite である。

既に昨年6月からの半年間で、販売管理対応版のデモセミナーを18回開催。参加者から、確かな手応えを得ていたという。今春には、販売管理だけでなく、生産管理・経理・人事・総務およびワークフローの各モジュールに対応したテンプレートが出揃い、本格的な営業活動がスタートした。

それではその特徴を、以下に細かく見ていこう。

リッチクライアントとPDF対応オールインワンが特徴

GUI画面による高い操作性については、IBMのWeb化ツールである「Rational HATS (Host Access Transformation Services)」を利用して、操作性に優れたリッチクライアント画面を実現している点が注目される。

HATSは通常、5250画面をそのままシンプルにWeb化している印象があるが、Blue iSiteでは独自に緻密なリッチクライアント化(チェックボックス、プルダウン、ポップアップ機能付き)に取り込んでいる。このリッチクライアント版に加え、Web版もまもなく発売される予定だ。

ちなみにiSeries SiteのGUI版は以前にも発売されていた。しかし今回は、

IBM純正のミドルウェアであるRational HATSを採用して開発に取り組んでいるため、信頼性・保守性に優れたGUI版として提供できることになった。

次に帳票のPDF化であるが、Blue iSiteでは、PDF変換・作成ツールとして実績の高い「UT/400-iPDC」(アイエステクノポート)の機能の一部を、PDFエンジンとして搭載している(ただし一部の機能をPDFエンジンとして取り込んでいるが、UT/400-iPDCと同等の機能レベルが実現しているわけではない)。

Blue iSiteに登録されたスプールデータをPDFに変換し、複写伝票印刷から電子保管、各種プリンタへの自動印刷、電子メール送信、Web配信、FAX送信など多様なアウトプットに対応できる点が大きな特徴である(一部オプション)。会社ロゴ等を入れたオーバーレイ機能も搭載しており、専用用紙の廃止によるコスト削減にも貢献できそうだ(図表2)。

従来のようなスプールファイルの印刷でも、PDFでの印刷でも、あるいはその両方でも自由に選択できる。

そして、PDFエンジンを含めたBlue iSiteのモジュールは、全てIBM i上のみで処理が完結する。別途にWindowsサーバーの導入が不要な点は、コスト削減や同一プラットフォームによる安定性の確保、サーバーの運用管理業務の負

荷軽減という観点からも、コスト効果の高い導入となるのは間違いない。

サポートの窓口はiBIアライアンスで一元化

Blue iSiteは、IBMのPower SystemsのExpress版対応商品となり、戦略的な価格での提供が予定されている。

販売およびサポートは、iBIアライアンスで一元化した窓口を用意しているから安心であろう。

対象ユーザーは、5250画面で利用しているiSeries Site導入ユーザー。あるいはiSeries Siteを導入していないIBM iユーザー、そしてオープン系サーバーでの業務ソリューション運用に支障をきたしている非IBM iユーザーなど、多様なターゲットを想定している。

iBIアライアンス発足の目的であったIBM i市場の拡大および活性化に向けて、Blue iSiteは強力な推進力を提供することになりそうだ。

Product Information

- 発売：2010年4月
- 稼働環境：V5R4以上